

近江八幡の水郷

近江八幡の水郷は、琵琶湖と近江八幡の町の間にある 354 ヘクタールの保護地域で、水路、ヨシ原、水田、集落が複雑に入り組んだ景観を形成している。この水郷は、人間が交通や漁業のための水路を作ったり、ヨシ原を耕したりして、何世紀にもわたって自然景観と関わり合いながら発展してきた。

このヨシは丈夫なことで有名で、伝統的に屋根材や衝立やすだれの材料として使われていた。また、ヨシは水質浄化、湖岸の浸食防止、水鳥や魚の生息地など、重要な自然機能を果たしている。

この地域は日本語で「水の故郷」と意味する「水郷」と呼ばれ、自然の景観と人々の暮らしが密接に関係していることを表現している。近江八幡の水郷は国の重要文化的景観に選定されている。